



横浜での起業・経営力アップに役立つ情報レター

NEWS LETTER

IDEC ニュースレター

No.16

冬
2016

(年4回発行)

IDEC
YOKOHAMA

【発行】公益財団法人横浜企業経営支援財団

〒231-0011 横浜市中区太田町 2-23
横浜メディア・ビジネスセンター7F
TEL.045-225-3700 FAX.045-225-3737
http://www.idec.or.jp

横浜生まれのお菓子「ミルクせんべい」に IDECのワンストップ支援

縁日やお祭りの屋台でおなじみの懐かしいミルクせんべい。実はこのお菓子は横浜生まれ。花丸本舗(保土ヶ谷区)の創業者が戦後間もない食糧難の時代、小麦粉・コーンスターチ・脱脂粉乳などを原料に、子供たちの栄養食として考案したものです。同社は現在も、一日あたり13万枚を製造、ほとんどが大手販売会社に委託して全国のコンビニや菓子店などで販売されています。

しかし、年々需要は減少傾向にあり、同社営業企画部長の佐藤氏は販路を開拓したり、ミルクせんべいをベースにした付加価値の高い新商品を開発できないかと考えていました。相談を受けたIDECのものづくりコーディネーターは、せんべいにソースをつけて売る案と、ソースメーカーのネームバリューを利用する企画を提案。広島の「オタフクソース」と交渉し、オタフクソースの名前がついた独自パッケージによる「ソースせんべい」を自社商品として開発しました。

コーディネーターは続いて、2014年夏に開催された横浜トリエンナーレを紹介。おみやげ用として食用のシルクパウダーを練り込んで、光沢がでるように工夫した「横浜シルクせんべい」を商品化しました。これが契機となり



「小さな笑顔のために」思いを語る花丸本舗の佐藤白砂氏

東急ハンズ横浜店の横浜らしい雑貨やお菓子を集めたコーナー「横浜モノ語り。」で同社関連商品の取扱いが始まりました。

また、企業とクリエイターの協働により新たな付加価値を生む、横浜市の「ビジネス・クリエイティブ・ヨコハマ」プロジェクトに推薦。“横浜育ちの特別な日常を嬉しい喜びに変換する”というコンセプトのプロジェクト「YOKOHAMA GROWN」のプロダクトとして取りあげられました。国内外の展示会への出展や、横浜市交通局のイベント出店など、注目を集めはじめています。

さらに、IDECの中小企業支援コンシェルジュチームも応援団に加わり、販売企画はもとより価格設定、広報戦略などについても実務的なアドバイスを行っています。

「おかげさまで、価格交渉を有利に進めることができています。(ものづくりコーディネーターからの)食べ方の説明文をつけるというご提案、ただいま社内で検討中です」と佐藤氏。

昭和生まれの定番お菓子に新しい可能性を拓くため、今後もIDEC全体でサポートしていきます。



着色料無添加・ノンオイルの駄菓子(写真上)。オタフクソースとコラボしたソースせんべい(写真左)。

創業・企業の経営課題の解決に向けて、IDEC 職員・専門家がお手伝い

www.idec.or.jp/keiei/

ワンストップ経営相談窓口 TEL:045-225-3711 (IDEC本部) TEL:045-788-9571 (金沢相談窓口)

■ Pick Up

インターンシップ経験を生かし、日本での夢の実現へ～IDECのインターンシップ生インタビュー～

IDECは横浜市立大学と連携し、市内企業の国際化支援の一環として留学生インターンシップ事業を実施しています。この事業は、IDECが受入先企業の募集を行い、学生と企業のマッチングを行うもので、今回で4年目を迎えます。国際総合科学部の林暁艶(りんぎょうえん)さんは、夏休み中にNPO法人国際交流支援協議会(IES)(中区)でインターンシップ生として研修を行いました。IESは、語学学習講座やホームステイ仲介を運営する団体で、4年連続でインターンシップ生の受入れを行っています。「毎年やる気のある学生が来てくれて、いい刺激になる」とIESの岡田紳作氏は話します。

今回の研修は、同団体の重点業務のひとつであるホームステイ仲介を広く周知するため、ホームページ作成を中心に進めることになりました。ホームページ作りは初挑戦だった林さんは、「初めてのことでばかりで覚えるのが大変だったけれども、広報の仕事には興味を持っていたので、とてもいい勉強になりました」と話します。岡田氏は林さんの真面目な態度を見て、インターンシップ研修を形のあるもので残してあげたいと考え、ホームページの公開をゴール地点にすることに決めました。現在、同会のホームページ(<http://ies-world.com/>)に、林さんの作成したホームステイのお知らせなどのページが公開されています。



「ホームページ作成は、大変だったけどいい経験になりました」と話す林さん

福建省出身の林さんは、小さい頃から宮崎駿やドラえもんなどの日本アニメに親しみ、日本文化に強い興味を持っていたため、漠然と日本での就職を希望していました。今回のインターンシップを通じ、その夢が、「広報の仕事に就く」というはっきりした目標に絞れたそうです。現在は、企業広報に役立つホームページ作りに携わってみたいと目標の実現に向け、活動中です。

インターンシップ受入に関心のある方は、国際ビジネス支援部にお問合せください。

留学生インターンシップの詳細は国際ビジネス支援部まで

問 国際ビジネス支援部 045-225-3730

東南アジア市場を取り込め! オオハシの海外展開

電線リサイクルを主な事業としてきたオオハシ(鶴見区)は、長年培った技術を生かして、電線被覆材をリサイクルした「リピーボード」を数年前に開発。リピーボードは鉄板の代わりに工事現場や農地で、仮設道路やぬかるんだ地盤の養生などに利用されるプラスチック製の敷板です。鉄板と比べて軽量のため、重機を使わずに人力で設置・撤去が可能で、コスト削減とCO₂削減が図れること、また、素材配合の技術により柔軟性に優れているため割れにくく、暑さ・寒さや耐候性にも優れているといった特徴があります。こうした技術が認められ、国土交通省のNETISに登録されています。

国内の売れ行きは好調で、近年ではリピーボード事業が主力事業となってきました。そこで、更に安定した市場を得ようと昨年5月には「サブコンタイランド」IDECブースに出展、アセアン域内での反応を見ることにしました。海外の展示会は初めてでしたが、IDECブースは、通訳や備品申込みなど展示にかかる諸手続の代行やサポートデスクの現地サービスなどがあり、安心して挑戦できたとのことでした。

展示会では現地の建設会社や設備工事会社から引き合いがあり、手応えを感じましたが、価格が折り合わず商談は成立しませんでした。帰国後、海外事業展開に本腰を入



サブコンタイランドでの実物展示と工事現場での使用例

れ、IDECの海外進出事業化可能性調査(F/S)支援を受け、タイに販売拠点を設けることを視野にASEAN諸国への販路拡大に取り組んでいます。

IDECでは海外展開のための様々な支援メニューを用意しており、企業の課題に合わせて継続的にサポートしています。今年5月の「サブコンタイランド」IDECブースにはトライアル出展向けの割安な展示スペースを用意します。出展をご希望の皆さまはぜひお問合せください。

※国土交通省の新技术活用情報提供システム。
New Technology Information System

国際ビジネス支援の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/kaigai/>

問 国際ビジネス支援部 045-225-3730

■ Pick Up

WHILL Model A が「グッドデザイン大賞」を受賞しました



IDECが運営する横浜市産学共同研究センター(鶴見区)に入居するWHILL(杉江理CEO)が開発したパーソナルモビリティWHILL Model A (写真)が、日本デザイン振興会主催の2015年度「グッドデザイン大賞(内閣総理大臣賞)」に選ばれました。

WHILL Model Aは「車いすユーザーも、そうでない人も、乗ることができる、乗ってみたいと思える」新カテゴリーのパーソナルモビリティとして一昨年9月に発売。昨年8月には、みなとみらい地区で、ショッピングや観光用途での活用を目指したシェアリングサービスの実証実験が行われました。デザインや機能はもとより、利用者にとっては「移動のわくわく感」が新鮮な体験に感じられたようです。最高技術責任者の福岡さんは「『乗り物は楽しいもの』と感じてもらえ

る製品です。これからは、シェアリングを始めとする地域に根ざしたサービスも提案していきたいので、横浜市内での実証実験への協力を期待しています」と話してくれました。

当センターでは、WHILL Model Aが、ちょっとした移動に「WHILL社員の足」として使われている姿を見かけます。

WHILL社が目指すユニバーサルなまちづくりの実現をIDECも応援していきます。WHILL Model Aの機能性とかっこよさが実感できるムービーをぜひ下記HPをご覧ください。



WHILL 社の詳細、WHILL Model A のムービーはこちら <http://whill.jp>

問 鶴見末広センター 045-508-7450

シニア創業の事例紹介～大人の英会話倶楽部～

今、50歳以上の創業は全体の46%を占め、シニア世代の創業が増加しています。中小企業白書はその理由を「退職後も働きたい意欲が高く、経験豊富、資金的余力もあるため」と分析しています。

都筑区に住む田中さんもその一人。53歳の時に勤めていた会社を早期退職し、シニア向けのオンライン英会話教室「大人の英会話倶楽部」を始めました。このとき田中さんは、「就職から80歳まで仕事を続けるとすると約60年。これから後半30年のキャリアが始まる。」と考えたそうです。半年間の事前調査など、万全の準備をして2014年1月にスタート。ところが当初は全く生徒が集まらず、授業がないため雇った講師も辞めていく、という悪循環に陥りました。

そのような中、IDECのワンストップ経営相談窓口を利

用。相談員はもっとシニア向けのサービスであることを明確に打ち出し、お客様に対してきめ細かいサービスを提供するようにアドバイス。その結果、2年間で会員数2千人を超えるまでに成長。田中さんは「若い頃だったら途中で諦めたかもしれないが、経験を積んだ今だからこそ続けることができた。」とシニアで創業したメリットを語ってくれました。IDECは引き続きシニア世代の創業もサポートします。



「パソコンに不慣れな方にも安心して利用いただけるよう心がけた」と語る田中さん

ワンストップ経営相談窓口の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/keiei/madoguchi.php>

問 経営支援課 045-225-3714

専門家 Column

窓口相談事例紹介

窓口相談員・中小企業診断士 中山 健

IDECは「ワンストップ経営相談窓口」で専門家が無料で各種の相談に応じています。今回、私が担当したのは飲食店を開業したいという山中圭介さん。横浜市役所の紹介で窓口を訪れました。

山中さんは当初、「初期費用を抑えるため居抜き物件(前の店舗の設備が残っている物件)を市内の全域で探している」とのことでした。しかし、飲食店にとって立地は重要な成功要因の一つであるため、まず立地を絞り込んだ上でスケルトン(設備が残っていない物件)も候補にするよう、助言しました。

同時に、創業融資制度の利用の仕方、融資に必要な事業計画書の書き方につ

いて助言。無事、開業資金を調達することができました。山中さんが最終的に選んだのは馬車道駅から徒歩3分のスケルトン物件。昨年11月に念願の店をオープンしました。

ワンストップ経営相談窓口では、創業支援以外にも事業計画作成、資金繰り、IT活用、助成金・補助金活用などの相談を受け付けています。まずはお電話ください。経験豊富な相談員が丁寧に対応させていただきます。

【店舗情報】

小料理 蓄(つぼみ) 中区弁天通3-43-1 B1F(みなとみらい線馬車道駅 徒歩3分、JR関内駅 徒歩6分) / TEL:045-227-8288、日祝休



中山相談員(左)と山中さん(右)。「必要に応じて幅広い相談ができるので、これからも利用したい」と山中さん。

■ 各種イベントのお知らせ

2016.1～3

イベント名 / 会場	日程 / 時間
新春特別企画 ASEAN経済統合セミナー / 関東学院M803(横浜メディア・ビジネスセンター8階) TPP、ASEAN 経済共同体(AEC)で中小企業の海外投資、サプライチェーンはどう変わるか。 日本企業の海外展開への影響を探ります。	1月29日(金) 14:00～16:00
テクニカルショウヨコハマ2016 / パシフィコ横浜展示ホールC・D 「よこはま産学・企業間連携コーナー」として、IDEC 広域連携大学や横浜市内企業・機関と共同出展します。	2月3日(水)～5日(金) 10:00～17:00
2016年度の為替相場の見通しとグローバル経済の現況 / 情文ホール 三井住友銀行との連携により最新情報をお届けします。	2月9日(火) 13:30～16:00
売れる新商品・新サービスの創り方 / IDEC大会議室 マーケティング調査の正しいあり方、ヒット商品の創り方、革新的な発想の生み出し方、さらに開発者としての考え方、あるべき姿勢などをわかりやすく丁寧に解説します。	2月10日(水)、17(水) 18:30～20:30
横浜ビジネスグランプリ2016 ファイナル / ランドマークホール 書類審査、プレゼンテーション審査を経たファイナルステージではファイナリストが熱いプレゼンテーションを展開します。	2月20日(土) 13:30～17:15 (交流会 17:30～19:00)
Yコネクト2 中小企業の海外進出事例～F/S(事業化可能性調査)と助成金活用～ / IDEC大会議室 IDEC が支援した市内中小企業の海外展開事例や、IDEC の F/S 助成金活用事例を紹介します。 海外展開を図る企業は必見です。	3月2日(水) 14:00～17:20

その他多数のイベントを開催しています。詳細はウェブをご覧ください。 IDEC 横浜

一みなどみらい線「日本大通り駅」直結 **0**分ー **みなと横浜を代表する**
横浜情報文化センター **日本大通りの歴史的建築物**

現在、4・10・12階のオフィス入居者を募集中。

4階	729.15㎡
10階	① 97.28㎡ ② 145.92㎡
12階	① 81.64㎡ ② 97.28㎡

●アクセス
 みなとみらい線「日本大通り駅」
 地下連絡口直結
 JR、横浜市営地下鉄「関内駅」徒歩10分
 中区日本大通 11番地
 Tel.045-664-3737

**入居者
募集中**



その他の施設の詳細はIDECホームページ <http://www.idec.or.jp/> 「施設案内」メニューから、各施設の入居募集案内をご確認ください。
 詳細は、施設経営部 問 045-225-3710 まで。

■ IDEC 上海事務所レポート「上海事務所主催の商談会で新規顧客獲得」 上海事務所 副所長 岩田 健

IDEC上海事務所と上海対外科学技術交流センターは昨年11月3日、上海市内のホテルで横浜企業と中国企業との商談会・交流会を開催し、86名が参加しました。上海事務所はセミナー・交流会を年に4回開催していますが、商談会の開催は今回が初めてです。

商談を希望する横浜企業の情報をあらかじめ同センターを通じて中国企業に提示して参加企業を募り、当日は双方が自由に商談を行いました。参加した大江電機(南区)の現地法人、欧応恵(上海)工業自動化系統貿易の田総経理は、「3社と工場の自動化に関わる案件を商談できた」と、手応えを感じています。

今回の商談会は中国(上海)国際工業博覧会にあわせて開催したものです。同博覧会では横浜ブースを設け、9社の横浜企業が出展しました。展示会出展を成果のあるものとするためには、会場への来場者に対する自社の紹介だけでなく、来場促進や集客活動を行うことが重要です。このような機会提供のため、上海事務所は商談会なども実施しています。上海の展示会情報は、「横浜産業倶楽部ニュース」メールでご案内しています。ぜひご登録ください。



個別商談と交流会を実施

中国での販路開拓等についてのご相談等は上海事務所へ
yokohama@idec-sh.com

編集後記 今号の1面では、メイン事業のひとつである、ものづくりコーディネイト事業とコンシェルジュ事業を組み合わせた支援事例を紹介させていただきました。また、IDECインキュベーション施設に入居する企業の製品が、「グッドデザイン大賞」を受賞しましたので、急ぎよ予定の記事を変更してご紹介しています。具体的に支援事業のイメージが伝わるような、紙面づくりに今後も努めていきます。ご意見、ご感想をお待ちしております。